

電算NEWS

INNOVATION

Vol. **137**
平成28年9月1日号

編集・発行
株式会社 電算システム
総務部広報チーム
担当：鷺見 小百合
岐阜市日置江1丁目58番地
(058) 279-3456

イノベーション(革新)は、電算システムの社是のうちの一語です。

50年目を歩む

昭和42(1967)年、当社は地元金融機関ならびに県内の企業による共同出資によって設立されました。当初資本金2,000万円の企業でしたが、現在では資本金12億2,700万円超、売上高289億を超える企業となりました。今後もCHALLENGE、INNOVATION、SPEEDを持ってお客さまに感動をもたらす企業へと邁進してまいります。



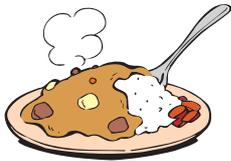
▲社内報第1号と第100号



▲50周年記念切手



本当の知恵は人間にあり、知恵は人と人との生のコミュニケーションから生まれる



月・金はカレーがあります。「カレーを食べる」と病気はよくなるガンや肥満の防止等にも効果があると言われています。



ところで

ゴーヤとは



沖縄では代表的な夏野菜で、苦瓜のことです。食欲増進、疲労回復、美肌等の効果があり、自律神経を整える働きもあります。

50周年を記念して、岐阜本社6階に新しくカフェが設けられました。真新しい木の香りに包まれたこの空間は、社員の交流や打合せ、憩いの場として開放されます。

社員がより一層、各々の「夢」を語ることでできる場所が、またひとつ、岐阜本社の中に誕生いたしました。

50周年記念
カフエ「ゴーヤ」
(50屋) 誕生



次世代の 技術者養成のために 岐阜工業高等学校様にて 講師を担当



当社では今年の4月より、岐阜県立岐阜工業高等学校様で実施されている「Pepperアプリ研修」の講師を担当しています。

本取り組みは、文部科学省の事業である「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」の一環として行われており、先進的で卓越した取り組みを行う専門高校を指定して研究開発を行うものです。

岐阜工業高等学校様が掲げる「次世代テクノロジストの育成」成長産業・未踏分野に挑戦する、モノづくりにスピリットをもつ若者の育成」を研究テーマに、ソフトバンクロボティクス社製のPepperを用いて、コミュニケーション機能・感情認識機能を有するロボットの制御プログラム開発技術を教えています。

**先進技術を「面白く」
更に実務レベルで**

当社が講師として参加する授業は、年間で15回を予定しています。Pepper

の基礎知識、アプリ開発技法、演出等のカリキュラムで、実践的に学ぶ内容にしました。

第1回目の授業では、当社の受付ロボット「MAO」を使用して、音声コミュニケーションのデモや、ダンスなどを紹介しました。

MAOは複数の関節を持つているため細かな動きが実現可能なロボットです。その様子を間近に見るのは初めてだということ、参加されている生徒さんたちは特に興味津々な様子でした。

現在はアプリとして機能実装するための開発言語や設定の方法についてを教えています。

カリキュラムの後半では、2月に行われる「生徒研究発表会」で発表するアプリケーションの開発を指導、支援していきます。

吸収の早い生徒さんたちのこれからの成長がとても楽しみです。



(↑)講師担当の白木による開発言語説明(写真右端)

(←)同じく講師の平井によるロボットの説明(写真右端)



ロボット元年ともいわれる2016年。生まれたばかりのロボットたちは急速に成長しています。ロボットたちのこれからの可能性を含め、熱く語っています。

今回の活動によって、地域での次世代テクノロジストを育成する一端を担うことができ、講師担当一同非常にやりがいを感じております。

挑戦心を持った実力ある人材を育成すると共に、地域におけるロボティクス分野の活性化に貢献してまいります。

(システムサービス事業部)

岐阜大学様 COC+事業 地域リーダーの育成に尽力

岐阜大学様は「『学び、究め、貢献する』地域にとけこむ大学」を理念として掲げられ、平成27年度に文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に採択されました。

教育プログラムとしては「聞く・見る」挑戦する「活躍する」といった三段階のプロセスを経て、「地域産業の活性化に貢献できる人材の育成」を目指されています。

地域活性に向けた産学連携のこの試みに、幸いにも当社が参加させて頂くことができました。

当社企業説明を 岐阜本社にて実施

平成28年6月1日(水)、20名を超える学生の方々が、岐阜本社までお越し下さいました。大半が1年生ということもあり、そもそもIT業界や系列分類とは



なんなのか、あまりご存知ではなかったと思います。当社が独立系のIT企業であり、どういう歴史のもと現在の規模に成長してきたか、そして現在の売上を支える事業内容などをまずご説明いたしました。その後、近年積極展開しているロボットアプリについて、開発担当者から実演を含めてお話ししました。

企業の研究 成果を発表

岐阜大学

ちようど一か月後の7月6日(水)、今度は岐阜大学様の教室にて、学生の方々の企業研究プレゼンに参加させて頂きました。当社を含めて計6社、企業訪問前後の印象変化や事業内容について、チームごとにパワーポイントでプレゼンをして頂きました。

企業訪問説明の後はHPなどで丹念に調べて頂き、かなり正確に当社の特長や事業を理解して頂けると感じました。企業訪問前は「IT? サービス? よくわからない!」だった



印象が、各事業内容のみならず、当社が意外と身近なサービスをご提供していること、積極性や挑戦を重んじ、夢を持って邁進すること、それが実現できていけるフィールドがある企業であることなど、様々なことに感じ取って頂けたようでした。

最後に、当プロジェクトをご担当されている地域協学センターの今永先生には、事前の調整からご心配、当日対応まで、大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。



第50期 夏季幹部研修会

この節目を
輝かせる
ために

平成28年7月30日(土)、大垣フォーラムホテルにて、第50期夏季幹部研修会が開催されました。取締役・執行役員及び部長職以上(ライン部長・推進部長)の、会社の軸たる総勢約50名が参加し、第50期上半期業績の結果報告及び下半期に向けた業績見通しについて、各事業本部より発表を行ないました。

宮地会長は幹部社員に対し「事業の究極の目的は「顧客の創造」であり、一番のキーワードは現場への情熱だ」と、改めて檄を飛ばされました。

自己を顧みて研鑽を積みつつ、さらなる飛躍へと邁進してまいります。



社会人水球チーム 「DSKドラゴンズ」の メインスポンサーはじめました!

平成27年、当社取引先企業様との協業、電算システムとの企業PR、日本水球界の発展の3つを大きな目的として、社会人水球チーム「DSKドラゴンズ」が結成されました。

チーム名「DSKドラゴンズ」の由来は、宮地会長を初め、水球立ち上げメンバーの多くが辰年であること、中日ファンが多いことからです。



▶「IT企業×ドラゴン」テーマの自作チームキャラクター

水球は掴む、蹴るといった行為が頻繁に発生する事から「水中の格闘技」とよく言われており、痛そうというイメージが強いです。しかし、小学生から社会人まで幅広い年代の方々に愛されているスポーツであり、男性だけでなく女性選手も多々います。

水中で行なう競技です。陸上のように自由な動きは取りづらく、筋力ももちろん体力が必要です。スポーツ選手はそれぞれ競技によって身につく筋肉が異なりますが、水中の格闘技たる水球は全身を鍛えることとなります。

しかし、水中だからこそ浮力を活かして戦うことも可能です。水の中にいながらも、そのバトルは非常に熱いです。

そもそも水球って何?

- ・水深2メートル以上のプールで行われる球技
- ・7名で構成される
- ・8分間を4回、4クォーターで行なわれ、ゴールにボールを入れあい点数を競う
- ・ハンガリーやセルビアでは非常にメジャーな国技のひとつ

主な活動内容 2016年

私達の主な活動は練習を積み重ねて大会に出場することです。その為のトレーニングも日々行ない、努力を続けています。

今年、2月から8月に渡るリーグ戦「ジャパウォーターポロリーグ(JWL)」に出場しています。順調に勝ち上がり、1部リーグ昇格が決定しました。



年内には、日本選手権と呼ばれる国内一を決める大会の予選も控えており、チームメンバー一同、日々練習に取り組んでおります。その他にも一部メンバーを中心に地域貢献・水球発展として千葉県内の水球教室で指導を手伝うなどしております。

日本代表 ポセイドンジャパンが アツい!

水球が盛んなヨーロッパ各国には及びませんが、今年ポセイドンジャパンは長年勝つことができなかったアジア大会で宿敵の中国やカザフスタンに勝ち、リオオリンピックに出場しました。メンバーの中にはテレビ番組「テラスハウス」で有名となった「ケンケン」もあり、現日本代表メンバーはイケメン揃いとして女性誌などでも取り上げられています。

リオでは白星を上げることはできませんでしたが、日本水球界の隆盛はまだまだこれからです。



DSKドラゴンズの活動はfacebookにて情報配信しております